

「地エネと環境の地域デザイン協議会」発足

エネルギーと環境の視点で地域や経営の課題をとらえ、新しいデザインを描けるプレーヤーを増やす。そのプラットフォームとなる「地エネと環境の地域デザイン協議会」(事務局・神戸新聞社)が発足した。設立シンポジウムに

は国連の持続可能な開発目標(SDGs)などに取り組む企業や自治体から130人が参加。急拡大する自然エネルギーによる世界の大変革と地域の自立をめくり、活発に意見が交わされた。

地エネで築く地域の未来

地エネと環境の地域デザイン

地エネと環境の地域デザイン協議会

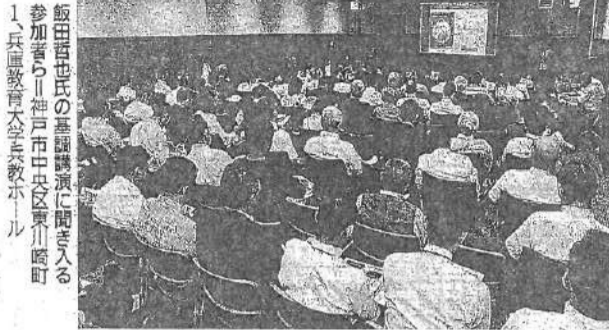
今の日本のインフラや制度の多くは昭和40、50年代に形づくられ、時代に合わないものも少なくありません。次のデザインを描く上で必要なのがエネルギーと環境の視点。持続可能な地球を考える上で最も重要なテーマでもあります。

エネルギーと環境 地域の視点で考える

日本は年間20兆円の化石燃料を輸入しています。この1、2割でも地域由来の自然エネルギーに変えれば地域経済は変わってくる。地域の資源を一手間かけて生かせる技術やシステムを増やすことは、日本の企業や地域にとって共通の目標になると思います。

協議会は、1年前に有志の実行委員会から始まりました。地エネを知るシンポジウムやツアー、体験学習、防災と地エネをテーマとしたイベントを開催しました。今年は、エネルギーと環境のプラットフォームとして取り組みを拡大していきたいと思っています。

神戸新聞社論説委員・辻本 一好



飯田哲也氏の基調講演に聞き入る参加者。神戸市中央区東川崎町1、兵庫教育大学まき教室。

基調講演

持続可能なエネルギー社会づくり

太陽光発電は、世界で去年110ギガワット、原発110基分増えました。原発は世界に430基ありますが、発電設備容量で風力は2015年、太陽光は17年末に追い越しました。太陽光は40年前に1ギガワットだったのが今は3万円。ハイテク技術は作れば作るほど性能が向上しコストが下がる。既に石炭火力より安い地域もあり、この先さらに安くなる。

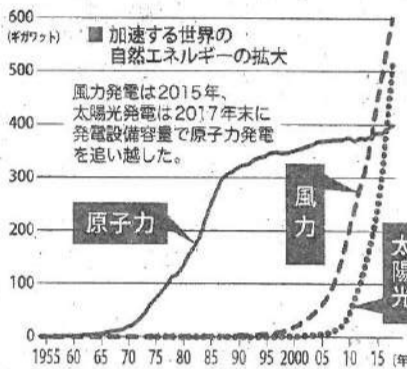


自然エネ100%に向け急増

いまだかつてない。1995年山口県生まれ。認定NPO法人環境エネルギー政策研究所(CEEP)の所長。京都大学工学部卒業。原子力産業や安全規制に従事。北欧での研究活動を経て現職。主な著書「自然エネルギーの未来」(ちくま新書)他。

認定NPO法人環境エネルギー政策研究所所長
飯田 哲也氏

石油中心のエネルギー政策が根底から変わる。化石燃料に依存してきた日本や欧州はエネルギーのGDPのマイナスがプラスになる。技術と市場がある日本は非常に有利です。



■「全国ご当地エネルギー協会」所属の主な団体

- アルプス発電
- 飛騨高山
- 京丹後
- おひさま(飯田)
- 備前Gエネルギー
- 市民エネルギー山口
- 小浜温泉
- 杖立温泉
- 北海道グリーンファンド
- おらって新潟
- 自然エネルギー信州ネット
- 会津電力
- 小田原
- 静岡
- 宝塚
- 徳島
- 阿蘇
- 下川
- 長野
- 富山
- 石川
- 福井
- 岐阜
- 愛知
- 三重
- 滋賀
- 京都
- 大阪
- 兵庫
- 奈良
- 和歌山
- 徳島
- 高松
- 香川
- 愛媛
- 高知
- 福岡
- 佐賀
- 長門
- 山口
- 広島
- 岡山
- 鳥取
- 島根
- 福井
- 石川
- 富山
- 岐阜
- 愛知
- 三重
- 滋賀
- 京都
- 大阪
- 兵庫
- 奈良
- 和歌山
- 徳島
- 高松
- 香川
- 愛媛
- 高知
- 福岡
- 佐賀
- 長門
- 山口
- 広島
- 岡山
- 鳥取
- 島根

「里山」「日本酒」テーマに分科会

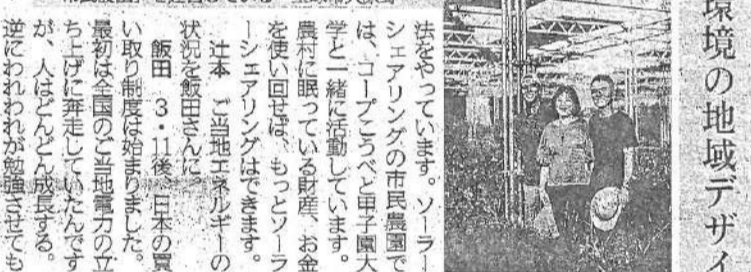
地エネと環境の地域デザイン協議会は北摂里山地域循環共生圏「地エネ・資源循環の日本酒づくり」などの分科会を開催。11月の第2回協議会分科会報告会を開く予定です。来年1、2月には第3回協議会を実施します。

- パネリスト
- 環境エネルギー政策研究所所長 飯田 哲也氏
 - 宝塚すみれ発電代表取締役 井上 保子氏
- コーディネーター 神戸新聞社論説委員・辻本 一好



井上 宝塚すみれ発電の太陽光発電所は6カ所。地域のみなさんがお金も出して、地域に利益が行き渡る市民発電所です。1号機は2012年にできました。もうひとつは食料の共同購入をやっていて、エネルギーの原価の低さをアピールしています。食料の共同購入は、信用や銀行にお金を借り、県無利子融資も使っています。食料を作ってくれる生産者を支えるか。答えがソーラーシェアリング。パネルの下では新規就農者が自然農

2016年4月に稼働した「宝塚すみれ発電所4号」(46.8割)の地主、新規就農者、発電事業者らが協力して「ソーラーシェアリング市民農園」を運営している。宝塚市大原野



井上 ソーラーシェアで就農者支え 飯田 ご当地エネ、都市も多面的に

日本中、そういうことが起きています。技術と経費を生かしてつなげて発展する。学びの場になってます。ソーラーシェアリングの架台は大量生産で普通の太陽光とコスト差がなくなってきた。都市でも多面的な利用ができるものも出ています。

地エネと環境の地域デザイン

●地エネと環境の地域デザイン協議会 会員募集のお知らせ●

2018年から「地エネと環境の地域デザイン」事業が実行委員会形式で立ち上がりました。より事業を充実、発展させるために2019年7月8日に「地エネと環境の地域デザイン協議会」が設立されました。現在、地元行政、民間企業・団体など32社と20名を超える個人会員が参加しています。随時協議会会員を募集しておりますので、ぜひご参加ください。

地域資源を活用した自然エネルギー(地エネ)を地域づくりに活かしていく。

地エネと環境の地域デザイン協議会

- セミナー講演会と会員同士の交流会の開催
- 事務局である神戸新聞社グループによる広報PRの活用
- 会員有志による「課題テーマ」ごとの分科会の開催・連携団体との交流

PR事業概要

- 体験学習
- 商品・製品開発
- シンポジウム
- イベント
- 地エネ&農食ツアー

お問い合わせ

地エネと環境の地域デザイン協議会事務局 神戸新聞社メディアビジネス局イノベーション・パートナーチーム 担当:豊田・三宅
TEL.078-362-7099 FAX.078-362-7363 MAIL.chiene@kobe-j.co.jp